

甲斐の金山から

令和2年12月24日 第94号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



2021年こそ!!

すべてが「いつもと違った」2020年。当館も感染症対策を徹底しながらの開館で、コロナ禍においても、多くのお客様にご来館いただきました。また町制施行記念日を核とした「みのぶ町民ウィーク」では、多くの町民のみなさまが足をお運びくださり、地元の歴史を改めてご覧いただくことができました。

2021年も、当館を支えてくださる数多くのみなさまに伝えるべく、身延町の生涯学習の場として、史跡甲斐金山遺跡・中山金山のガイダンス館として、魅力ある博物館づくりに努めてまいります。
(表紙写真は、内山金山調査のようす。新年情報詳細は7ページ)

下部温泉郷の火の見櫓が語る歴史

—『写真で見る下部温泉郷・黎明期』展に寄せて—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

当館のエントランスホール(フリーゾーン)を会場に、地元の下部区が主催の写真展、題して『写真で見る下部温泉郷・黎明期 一下部・波高島開削道路百周年記念として』が、2020年12月10日～2021年1月31日を会期として開催されています(今号P. 8にも案内情報あり)。

どのような内容の写真展なのか。これはとても重要なので、初めに少し踏み込んで確認しておきたいと思います。少々長い題名を与えられています、そのサブタイトルにある「下部・波高島開削道路」というのがキーワードで、その道路が出来てちょうど100年が経過したことを記念することがポイントとなっています。

このうち「下部」は古くから温泉地として知られた場所、そして「波高島」は富士川の渡しのある交通の要所という関係があり、以前は両者の間を結ぶアクセスは、狭隘な山道を徒歩で結ぶものであったそうです。それが100年前に画期的なアクセス改善がなされたのです。

100年前というと1920年すなわち大正9年のこととなりますが、これに先立つ明治後期に出された地誌には、年間2万人ほどの湯治客がこの下部温泉郷に、悪路を厭わず訪れていたとあります。明治から大正に移り変わる頃には、全国的に鉄道の整備が進んだりして、観光ブームというほどのものが起こっていました。身延線(当初は富士身延鉄道)が東海道本線から分岐して当地に延伸されてきたのは1927年のこと

ですが、それもそうした世相を背景としたものでありました。

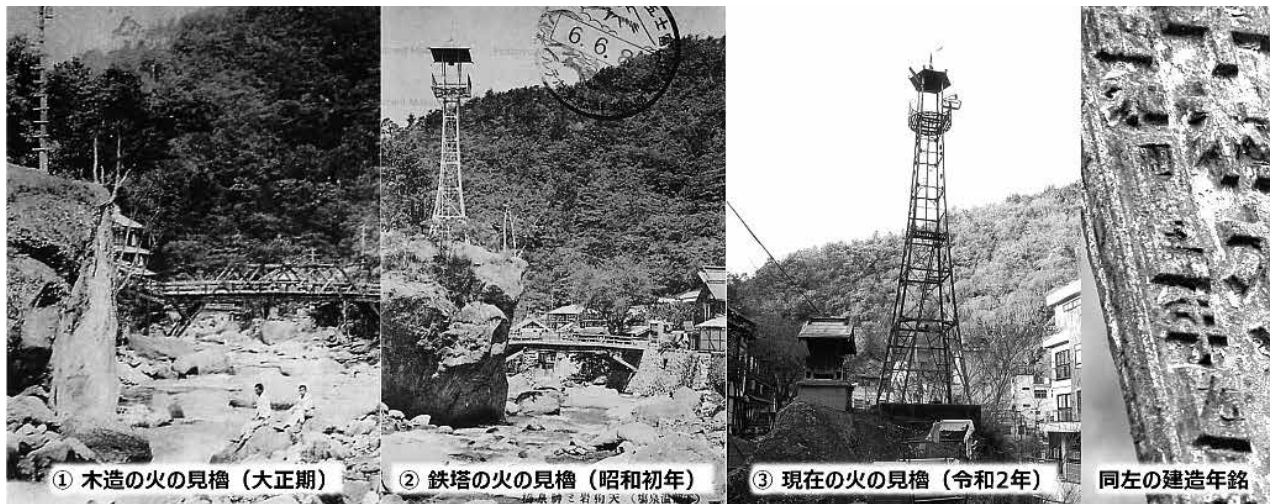
時代の要請を受け、温泉郷へのアクセス道路の整備はたいへん重要なことだったのです。足かけ5年を要した難工事が、当時の村議会の主導で進められたのですが、工事は技術的な困難をきわめ、連動して事業費もかさみ、公的な事業ではあったものの自治体の財力は現在とは相当に事情が異なり、私財をもって協力した方もおられたという話も伝わっています。

ともかく温泉郷への新しい道路が出来、車両の通行が可能となり、しばらくして鉄道も接続され、新時代が到来したのです。変化は、温泉場への来訪者が増加しただけでなく、薬効のある鉱泉として樽詰めされて送り出されたり、また「湯之奥」の豊富な森林資源が運び出され、貨車で送り出されたり、産業構造にも大きな転換をもたらせています。

今回の写真展は、その大きな転換のようすを記録した22枚の、元は絵はがきとして作成されたもので構成されています。一枚一枚はもとより、いくつかを対比し分析すると、とても大きなテーマを引き出すことが出来そうですし、そう堅苦しいことを言うまでもなく、見る人が楽しく思い出深く引き込まれる要素を持ち合わせています。そんな奥行きのある内容の中から、話題を「火の見櫓」にしぼって、今回の話題といたく考えます。まずは次ページに挿入した一連の写真の右端からご覧ください。

温泉郷の中の神泉橋の少し上流にある天狗岩と呼ばれる、下部川にせり出した巨岩の上に木柱による火の見櫓があって、上方に半鐘がつり下げられているのが認められます。木造の火





の見てずいぶん年代物だなあとと思いますが、それもそのはず、大正の初め頃の状況を写しているものです。これに対し次の中ほどの写真に目を移すと鉄骨造の火の見櫓になっています。時期はというと昭和6年のスタンプが押されているので、その時分には鉄製の火の見が建っていたこととなります。

実は現在もほぼ同じ位置に鉄塔火の見櫓が建っていますが、よく観察するとかなりようすが異なります。ここに忘れがたい歴史があるのです。一番右の写真は現在の鉄塔櫓の一角に付けられているプレートの紀年銘の部分に焦点を当てたものですが、そこに「昭和四三年九月」とあり、今のものは戦後に再建されたものと理解されます。この移り変わりには、どのような意味があるかが重要ですが、昭和6年頃の写真の、望楼と屋根が四角いものは、昭和17年頃に進められた戦時体制下の金属類供出のため

に撤去されていたのです。それが昭和40年代に入って円形平面の望楼と六角形の屋根の今ある形に再建されたのです。

温泉郷の歴史をたどると何度も火災が起きていることが知られますが、だからこそ火の見櫓はたいへん重要な役割を担ってきたのですが、悲しいかな戦争のために犠牲になり不在になったりもしていたのです。それが見事によみがえり地域の見守りの任に当たってくれています。

ひるがえって今日、例の新型ウイルス感染症がワールドワイドで政治経済や社会全般に深刻な影響をもたらしていますが、今ここで新しい年を迎えるに際し、地域社会を見守るシンボリック存在の火の見櫓が果たしてきたような力が、感染症の撲滅にも必要なように思われます。あわせて当館の運営と、ここに関係する地域や多くの皆様方の新年がつつがなくよい方向に向かうよう祈りを込めたいと思います。

新年の館長講座「峡南の考古学」と《シリーズ》いでさんぽのご案内

新年の開催日程をご案内します。詳細は、博物館ホームページなどでご確認ください。

館長講座「峡南の考古学」第13回

2021年1月24日(日) 13時30分～

テーマ:南部氏の考古学(3)

※第14回・2月11日(木・祝)、第15回・3月28日(日)と予定されています。

館長講座アウトドア版 第7回いでさんぽ

2021年1月16日(土) 11時～15時30分

身延線特急で富士宮まで

浅間大社と世界遺産センターへ

※第8回は方面未定ですが、3月6日(土)の予定です。

教育現場での利用再開

10月以降～

新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、教育現場でも細心の注意が払われている中、夏を過ぎたあたりから学校利用再開に伴い、館内に子どもたちの声が戻ってきました。博物館展示でしっかり学習した後は、恒例の砂金採り体験。大声での会話や、対面での体験作業を避け、対策を講じながら、館内での時間を

楽しんでくれていました。引率の先生方にとっても課外授業の実施がなかなか難しい中、館側と十分に打ち合わせをして来館してくれています。子どもたちの元気な声は、周囲を元気にさせる力がありますね。(来館履歴：身延小10月6日、長坂中10月13日、若草中11月13日、下山小11月16日、静岡県中島小11月19日)



古の採掘遺跡サミット(徳島県阿南市)参加

10月17日(土)

山梨から離れた徳島県阿南市において、シンポジウム「古の採掘遺跡サミット」が開催されました。令和元年10月に国指定史跡となった若杉山辰砂採掘遺跡の整備と活用方法を考えるため、採掘遺跡を持つ全国5自治体から担当者を招き開かれたものです。若杉山遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期(1～3世紀)にかけて稼働したとされる、全国唯一の辰砂(水銀朱)を採掘した遺跡です。この日の事例報告には星糞峠黒曜石(長野)、星ヶ塔黒曜石(長野)、多田銀銅山(兵庫県)、小豆島石丁場(香川)で、当館の小松学芸員も甲斐金山遺跡について報告しました。

配信され、会場ではマスク着用や消毒の徹底、場内の導線対策など、万全のコロナ対策の中での開催でした。5つの事例で共通しているのは、いずれの史跡も深い山中にあり決して好立地ではないが、鉱山資源獲得のあり方を示す重要な採掘遺跡であるということ。

いかに世の中に魅力的に発信していくかが課題であり、歴史的価値に重きを置きつつ、地域の観光資源のひとつとして、国史跡の利活用を推進する活動や取り組みがこれまで以上に求められる昨今、それぞれの自治体同士で情報共有しながら、改めて“これからの史跡”を見つめ直す機会にもなりました。

YouTube阿南市公式チャンネルでもライブ



栃代金山遺跡チャレンジウォーク

11月15日(日)

感染症対策を施したうえで開催出来たチャレンジウォーク。謎に包まれた栃代金山ですが、地元住民の皆さんの関心も高く、久方ぶりの見学会事業は20人以上となり、晴天のもと大盛況で終えることができました。

遺跡現場を見ながらどのように歴史を謎解きしていくか、そしてそこには大変な労力が必要であることなど、解説の折に触れて伝えさせていただき、参加された皆様側からみても新しい知見が広がったようです。現地見学後、下準備の段階からご協力くださっている依田萬代

さん(町内常葉在住)のご自宅をお借りして、休憩時間と合わせて閉会式を行いました。

町内には湯之奥3金山以外に、川尻、常葉、栃代と全部で6金山ありますが、これですべての金山について、地元の方のご協力をいただきながら、第一歩としての独自調査の手を入れることが出来ました。

町内金山について、今後も継続的な現地踏査や研究考察を続け、歴史解明につなげていきたい所存ですので、地元の皆様の引き続きのご協力を宜しくお願いいたします。



第2回 博物館運営委員会

11月24日(火)

博物館運営に関するご審議を委員の先生方にいただく2回目の運営委員会が開催されました。緊急事態宣言下の臨時休館明け間もなく、6月の第1回目の運営委員会から、約半年。コロナ禍での世の中の動向に連動した活動状況、開館状況について事務局から報告がなされ、委員の先生方から貴重なご意見、ご助言を多数い

ただきました。いただいたご意見を今後の館運営に大いに反映してまいります。



久間先生のモノづくり教室2020「探査ロボット」

12月6日(日)

松江工業高等専門学校の久間英樹先生のご指導による、モノづくり教室を開催、今回は転倒しても自分で起き上がる「探査ロボット」に挑戦しました。小学校3、4年生を中心とした子どもたちが参加してくれましたが、久間先生は「失敗はたくさんして大丈夫!」と寄り添ってくれるので、参加した子どもたちも安心して作業をしているようすが伝わってきまし

た。とはいえ、組み立ては決して簡単ではなく、少し加減が違うだけでもロボットが動かないということもあります。

先生の丁寧な指導のもと、ネジや歯車など小さな部品をコツコツ組み続けること2時間。全員が起き上がるロボットを作り上げ、その出来栄えに子どもも保護者も大変満足したようです。モノづくりの楽しさを改めて感じたようです。





湯之奥3金山の中で最難関とされている内山金山は、中山金山とは別尾根の毛無山山中の標高1400m付近に位置します。このほど、長年、当館と共同研究をしてくださっている松江高専の久間英樹先生の3Dデータ計測調査に同行する機会を得た私が、内山金山初踏査の所感と現場のようすをここにレポートさせていただきます。

内山金山は、博物館から湯之奥に向かって車で20分程進んだ、入ノ沢沿いを登って行き、茅小屋金山を通過したさらに上流に位置します。『甲斐の金山500年展』で展示された甲斐金山紹介パネルには、遺跡までの道のりの難易度が星マークで表してありましたが、なんと内山金山は、5段階中星マークが5つだったことを思い出します。調査に何度も行っている小松学芸員からは「道がなく、油断したら危険」と聞いており、そもそも私は無事にたどり着けるのか緊張しながら歩みを進めましたが、事前に聞いていたとおり、大きな岩がごろごろして、急な斜面ばかりの大変険しい所でありました。このような場に村を作り、テラスを造成し、人々が金の採掘をしながら暮らしていたと思うと、改めてすごいなと感じました。

まだ辺りが真っ暗な早朝6時、石部リーダー、小松学芸員などの博物館関係者、久間先生、ドローン撮影の方ら7人で沢を渡り、自分の体よりも何倍も大きな岩を乗り越えながら登っていきました。この日は天気が良く、足を止めて振り返ると南アルプスの山々がくっきり見えとても気持ちのいい景色を目にすることもできました。

登り続けること約4時間半、テラスや石造物が広がる遺跡の少し手前のまだデータを採っていない間掘り跡にたどりつき、3Dデータ計測を開始しました。道もなく、決して足場がいいとはいえないこの場所での計測もかなり大変です。さて、まず発泡スチロールの球をいくつも設置することから始まりました。この測



えて時間をかけて何度も撮影したものを、つなぎ合わせることでようやく一つのデータになります。つまり、この球はデータをつなぎ合わせるための目印であり、不可欠な作業です。険しい湯之奥3金山を相手に、この計測手法で計測を行えるのは、日本広しといえども久間先生だけ

ではないかと感じました。

ちなみに、その成果の一つとして、当館2階の展示空間のひとつに、くぐって通ることができる坑道模型があり、その坑道模型の奥に坑道映像が流れています。「バードビュー」という、まるで鳥が空を飛びながら地上を眺めているようなイメージの空間把握データですが、これは、久間先生の時間と手間をかけたこの3Dデータ測量によって作られているのです。ちなみに坑道一本のデータを採るのには、なんと1日もかかるそうです。博物館にお越しの際には、ぜひこの展示に注目してみてください。

さて、ここでチームは、測量組と遺跡組に分かれました。私は遺跡組だったので測量の様子は最後まで見ていませんでしたが、これから先、諸先生・先輩方からもっとたくさんいろいろ学びたいと思いました。

山は広く深く、調査したい場所はまだまだたくさんあるわけですが、特に冬は日が短いため、山中で昼食をとった後、午後2時前に下山を始めました。登山道入り口まで降りてきた時には、すっかり日も落ちて辺りも真っ暗、慎重に山道を降りてきましたが、全員ケガもなく無事に帰ってきました。こうして私の内山金山初調査は終わりました。

この時期は日照時間に限りがあるため、現場ではかなり短い滞在時間でしたが、実際に行ってみることで写真ではわからないスケールの大きさや、雰囲気などを掴むことができました。これから先もう少し日が伸びたら、ぜひ内山金山ヘリベンジしたいと思います。(学芸員 伊藤佳世)



銚子電鉄自主製作映画「電車を止めるな」上映会

10月最終土曜日を皮切りに11月中各土曜日、当館映像シアターにて、千葉県銚子電鉄のオリジナルムービー「電車を止めるな！～のろいの6.4km～」の上映会をいたしました。

この経緯は、テレビのバラエティー番組で、地域鉄道・銚子電鉄が、財政立て直しのため製作した自主映画がコロナ禍で上映先がなく窮地に追い込まれているということが取り上げられていたことです。下部温泉の目の前を走っている身延線も地域の足として大事な公共交通機関で、別事業「いでさんぼ」でも活用しています。なんとなく似た状況が重なり、加えて身延町は千葉県の鴨川市と姉妹都市でもあることから親近感も沸き、大変な経営努力を続けている地域鉄道を応援したいという思いから、上映会場に名乗りを上げたことから上映会開催に至りました。

お越しくくださった皆さんからは「想像以上に面白かった」という意見をいただき、またその鑑賞代金や、コラボ商品の売上代金が銚子電鉄の財政再建に充てられることから、博物館店頭で期間販売した「ぬれ煎餅」や「まずい棒」も、たくさんご購入いただきました。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。



[2021年 新春情報]



毎年売り切れ必至の「福缶2021」が今年も登場。2021年こそ安心できる新年になってほしい。そんな願いを込めつつ、当たりくじ付き(100缶中1等～3等有)で登場。100缶限定、なくなり次第終了！自分のお年玉に、スペシャルな1缶をいかがですか。12月19日(土)から発売開始しています。

<価格> 2021年にあやかって**2021円!**
<数量> 限定**100**缶 ※おひとり様**1**缶まで
<購入方法> 博物館売店でご購入いただけます。



※砂金が混入された砂が入った、お家で砂金採りを楽しむことができる「ビックリ！砂金缶」のお正月限定バージョンです。福缶の中身は開けてからのおたのしみ！その他詳細は博物館公式HPをご覧ください。

2021年1月2日(土)から開館

年明けは1月2日(土)から開館。(午前9時～午後5時 ※最終受付午後4時30分。毎水曜休館)さらに2日(土)～5日(火)は新年特典を用意しています。

- 特典①** 入館された先着100名様には干支守か、干支トイレットペーパーをいずれかをプレゼント。
- 特典②** 砂金採り体験では、大人も子供も喜ぶ「天然石&純銀粒&古銭」増量。
- 特典③** チケットを買ってくれた小中学生以下のおこさまには、「新年お年玉ガチャ」



※景品がなくなり次第終了。その他、売店ではお菓子やお土産などを詰め合わせたお得な「福袋」も用意しています。2021年もスタッフ一同、みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

第9回金山遺跡・砂金研究フォーラム 開催のお知らせ

「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催してきた「金山遺跡・砂金研究フォーラム」も第9回目を迎えます。開催するか否かも団員の皆さんの中で議論が重ねられた中で、研究発表や楽しみの場を博物館応援団としてできる限り提供していきたいという熱い想いに至り、下記の日程で開催決定となりました。例年より規模縮小しての開催となります。当日は、口頭発表とポスターセッションが開催されます。

■主催・企画：湯之奥金山博物館応援団Au会

■期日：令和3年2月6日(土) 午後13:00～15:30 ■場所：博物館映像シアター（博物館2階）

■参加費：500円(資料代として) ■会場定員：30名 ※後日、インターネット動画配信予定有

12:30～ 出月洋文館長によるギャラリープレトーク

13:00～ 発表スタート(※発表時間 各20分)

発表者

市川 剛(神奈川県)「山歩きからの丹波山産金遺跡調査について」

三木昌信(兵庫県)「離島砂金掘りシリーズ 対馬の砂金」

広瀬義朗(岐阜県)「産金遺跡調査におけるCS立体図の利用」

野村敏郎(兵庫県)「タイトル未定」

伊藤佳世(博物館)「砂金採りで“大変なもの”を見つけてしまったら…」

ポスターセッション

鰐部幸隆(愛知県)「含水銀砂金の元素分析」

広瀬義朗(岐阜県)「CS立体図を利用した柴金遺構調査」

天野直人(静岡県)「多種多様なバンニング皿」

写真でみる下部温泉郷・黎明期

～下部・波高島開削道路百周年を記念して～

下部温泉郷を支える下部区の方々の企画による自主写真展開催中。身延線も駅もなく、温泉郷までの道路もなかった頃、そして住民悲願の開削道路が開通し賑わっていく温泉郷の約100年前当時のようすを、数々の貴重な写真から見る事が出来ます。ぜひ、お気軽にご覧ください。

■主催・企画：下部区 ■協力：湯之奥金山博物館

■展示期間：令和3年1月31日(日)まで

■場所：博物館エントランスホール壁面 ※鑑賞無料



※すべてのイベントにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止対応策を施した上で、計画・開催しておりますが、今後の状況により変更となることもあります。その際には博物館公式HPでお知らせさせていただきます。あらかじめご了承ください。

編集後記

2020年、世相を表した漢字は「密」でした。「新しい生活様式」がしだいに定着してきたようにも感じましたが、感染症との戦いは、残念ながら終わりが見えていない現実が、目の前に立ちはだかっています。しかし、立ち止まればかりはいられないわけで、こういう時だからこそ成すべき博物館の役割、そしてみなさまに提供できることを改めて考え、活動展開してまいります。2021年の12月には「楽」とか「明」とか、気分が華やかような漢字が選ばれるような一年になっているようお願いしつつ、「華」もいいですね。

博物館だより

第94号 令和2年12月24日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん 